

# 2013年度（H25）総会報告

（事務局：広塚）

## 2012年度及び2013年度（事務局）活動報告と方針

日本野鳥の会筑豊：ボランティア自然保護団体として、多くの会員の知恵と協働による運営方式の確立と実践がどのように行われたか、その視点から総括するのが理想と考えます。

言い換えると、事務局としてのこだわりは役員だけでなく一般会員を含めた気楽な参加型の運営方式を構築できたかどうか、小さなローカル団体として持続発展していけるポイントと思われる。その点に関してローカルで小さい団体であるが故の強みで、会員の顔が見える組織として身近な12年度の活動として振り返れるかに掛かっています。

会報「野鳥だより」や当会サイト「くまたか」を例にとっても、役員からの一方報告でなく多くの会員からの自由投稿や発表により会員相互の交流と情報の共有化の進展が、どの程度達成されたかで、身近な魅力ある会としての評価に繋がると判断します。その発表機会の間口を広めて、更に、積極的な「やりたい提案」を受けた場合は、役員として会員協力や周知を含めた支援体制を進めることで気楽な提案と参加型の会の道が前進するものと理解しています。

今年度も、各専門部とは企画を含めた調整役として関わって来たことから、昨年同様に事務局の立場から各専門部の評価と課題などを述べて、勝手ながら総括と方針の一体提起とさせて頂きます。その他、承認案件と必要な報告項目について何点か合わせて報告致します。

### 1、会員動静

会員状況は、2005年頃から右肩下がりとなり2007年に218人へ会員減少が続き、200人を割る危機的状況が発生しました。なんとかせねばと、当会行事や当会サイトなどからの情報を基に「ふり返り検証」を繰り返しながら反省と対応策を練ってきました。

それぞれの行事实施は、企画準備からお世話など大変ですが、野鳥の会の紹介機会を多くすることや行事のお世話役検証などで、昨年の新入会員16名（2012年1月～11月11ヶ月実績）をお迎えして、2012年12月1日現在会員：246人となっています。一方、退会者は19名にも昇り高年齢化の組織実態は変わっていません。

2013年は、探鳥会行事などに友人知人をお誘いして、探鳥会行事と一緒に愉しみながら入会の働きかけを地道に進め、更に、皆さんの新たな企画提案を期待して、厳しい会員状況を克服していきましょう。

一方、会の行事に参加でない会員の皆さんには、会員の継続で、財政支援や自然保護団体の側面支援の大きな支えになっている事を理解して頂き会員継続をお願いしてきました。それに、バリアフリーに近いフラットな探鳥コースを設定して探鳥会参加やベテラン会員の自由投稿への参加の呼掛けなど行っていきたいと考えています。

### 2、運営委員会

毎月、平日と日曜運営委員会を実施しました。平日運営委員会は小人数の突っ込んだ意見交換や編集委員会と野鳥だよりの印刷を、日曜運営委員会は野鳥だより発送を兼ねて運営委員会を会員の協働により行う事が出来ました。この運営委員会へ参加を求めるために、探鳥会など機会ある毎に、年1回でも当会事務所に気軽に足を運んで頂けるようお願いしました。結果、役員だけでなく一般会員の参加もあり感謝致します。

なお、

平日、日曜運営委員会の一本化の提案もあり、検討を進めているところです。

### 3、各専門部に関して

#### (1) 普及部

多くの会員に担当をお願いして継続は力なりで進めています。参加人数は気になるところですが、ベテラン会員と違い一般参加者や新入会員は「普通種やいつもの探鳥地」でも新鮮に映る初心者の気持ちに期待して、ひとりでも参加者があれば実施していく方針に踏襲してきました。また、行きたい探鳥地や新たな提案があれば議題に載せて検討するように努めてきました。新年度の案に意見提起を期待しています。

#### (2) 編集部

40年を超えて、新年1月号は419号として発行されています。この会報発行をボランティアで毎月継続してきたことは、歴史的な大偉業と言っても過言ではありません。一ヶ月のサイクルはめまぐるしく、会報発行時点で次の準備となります。いろいろなやり方で編集発行がなされてきましたが、現行のPC編集方式を三宅現部長が提案され、且つ、編集部長自身が担われてから充実した安定的な発行体制になったと理解します。更に、双方向の情報交換の場として、読者の広場など気楽な投稿の参加型編集方式に、進化していると大いに評価されます。

#### (3) 情報部

当会サイト「くまたか」の日毎の更新だけでも大変な作業に、昨年度の野鳥だより創刊から400号までのPDF化や筑豊野鳥アーカイブなど、気の遠くなるような膨大な稼働を尽くして完成されました。今年は、「筑豊野鳥観察サイト」の本格実施の提案は、野鳥の会の基本情報である「野鳥だより・野鳥観察情報」の発信と蓄積を進める新たな施策と考えます。当会にとって基本運営に付加価値を付ける企画であり、側面支援や必要経費は可能な限り会としても対応するべきと判断しています。

#### (4) 植物部

植物部設立15周年までの成果は、部長のご苦労はもちろん、参加会員の皆さんの識別レベルUPの獲得は大きな財産となりました。また、鳥だけでなく野草や樹木の観察を記録する楽しさを学び、今では、全国の野鳥の会の仲間にも当会筑豊の植物部の具体的活動を発信して高い評価を頂いています。

一方、毎月の企画の準備と実施は、楽しさと裏返しに相当な負担となったこと理解できます。新たな提案の負担軽減と継続の解決策である「ミニミニ観」方式を基本に行うこと了解致します。

#### (5) 研究部

野鳥の会の重要な活動である「調査研究」を、部長をはじめ会員の協働で、ガンカモ調査やハチクマ渡り調査は約30年の継続調査が実施されています。何かを「保護」するには実態調査から現状を把握してはじめて保護施策が可能となります。

その他に、県委託調査やソウシチョウ調査を続けるためにも新しい調査員を期待したいところです。また、小中学校や自治体の探鳥会指導に関わって次世代の会員育成に貢献されていることは大いに評価されます。

#### (6) 保護部

昨年は、嘉麻市の男性が鳥獣保護法違反で地検飯塚支部に書類送検されています。密

猟者対応や違法鳥の識別、対応後の放鳥、更には、野生生物保護センターへの持ち込みなど専門知識が必須であり、会員としては、密猟や違法飼養を見つけたら「110番」又は「後藤鳥獣保護委員：090-8666-9059」へ連絡して密猟や違法飼養撲滅に協力しましょう。

#### (7) 会計・販売部

河野部長が、両担当を一人で担っておられ両担当の年間処理については、別紙資料の様に予算対比実績の分析を含めて判りやすい提案と完璧な報告がなされています。しかしながら、どちらかの担当又は副担当の協力者が現われれば、担務軽減ができますので協力者が現われることを願っています。

#### 4、恒例の写真展について、

各地の順番から本年度は直方エリア開催となっています。8月20日から8月30日：鞍手歴史資料館にて実施（案）で検討に入っています。地元の河野三郎氏をはじめ遠賀川流域の会員を中心に担当をお願いして、役員や出展者の支援協力体制で開催できればと期待しています。

#### 5、新役員体制について

本年は、役員改選の年ではありませんが、バスツアーの担当に就いて頂いている国武光成氏を普及部の副部長にお願いして、松尾部長と「キサンキサンコンビ」の体制を提案致します。

#### 6、会員による自主企画の観察会等の実施の奨励について

ミニ観察会や自然観察会、写真展、巣箱づくり、バードカービング、地域の観察会などの会員による提案と自らの実施を期待します。

それら自主企画に対しての開催条件と当会筑豊の支援について

(1) 自主企画者は、会報「野鳥だより・筑豊」又は、サイト「くまたか」に行事内容を投稿して、結果報告を行う。

#### (2) 安全第一

行事開催に当たり安全に対する注意喚起及び参加者名簿の作成を行う。

(注)：(1)と(2)は、事故発生時に、探鳥会保険の適用の必須条件です。

#### (3) 開催条件と当会筑豊の支援

①環境保全（ローインパクト）：野草採取の禁止及びポイ捨て厳禁などの徹底周知

②野鳥生態などに悪影響を及ぼす様な行為、撮影、写真展示は行わない

③本会の備品（ノートPC・プロジェクター・写真額・CD・各種資料）の貸出

④会報（野鳥だより・筑豊）及びサイト「くまたか」などによる広報

⑤その他の支援は、本会の力量を考慮して自主企画者と相談して決定

#### (4) その他

小学校などの学校関係の観察会は、安全管理の視点から主催は学校にお願いして、会員が探鳥会指導を分担する。

#### 7、40周年記念バスツアーについて

2月の40周年記念探鳥バスツアーに固定費（バス代：20万円）を特別会計より支出すること提案します。

(参考)

特別会計は、節目の大きな行事補助や記念誌発行、備品購入、通常年の赤字補填などを目的として蓄積している財源です。

収入源の主なものは、県委託調査費、本会独自の出版物（ひこさんの鳥・筑豊の野鳥）からの利益金です。